

来月、ソフト男子世界ジュニア選手権

ソフトボール男子の世界ジュニア選手権（7月11～20日・カナダ）に出場するU-19（19歳以下）日本代表に、平林金属クの尾崎貴成内野手（18）ら岡山勢5選手が選ばれた。1981年の第1回大会以来、9大会ぶりの世界王座を狙う日本の中心メンバー。10～13日に岡山市である強化合宿を前に、気持ちを高めている。（村上達也）

主軸の尾崎（平林金属ク）ら



主軸として期待される尾崎貴成

岡山勢5人Vへ意欲



環太平洋大から代表入りした（左から）山本明、宇根良祐、尾本心平、細川卓翁

日本代表入りしたのは、尾崎のほか、いずれも環太平洋大の尾本心平外野手（19）
 2年、宇根良祐内野手（18）
 1年、細川卓翁外野手（19）
 同、山本明内野手（19）
 同。出場権を懸けたアジア選手権（昨年12月・タイ）でも主力として、日本の3連覇に貢献した。

17人のメンバーの中で、日本を率いる山口義男ヘッドコーチ（大村工高監督）が「打つ中心」と信頼を寄せるのが、平林金属クの新人一塁手・尾崎だ。172センチ、108キロのスラッガーは、同高時代に2011年インターハイをはじめ12、13年の全国高校選抜で優勝。球種に応じてスイングの軌道を変えられる器用さを持ち、日本の主軸に座る。世界ジュニアでは「剛速球を投げ込む外国人投手から本塁打を打ちたい」と心待ちにする。

創志学園高野球部出身の尾本は、大学からソフトボールに転向した異色選手で、身長168センチと小柄ながら50歳5秒7の俊足が武器。アジア選手権では主に9番でつなぎ役に徹しており、「カナダでも小技で相手を揺さぶりたい」と話す。

宇根は強豪・読谷高出の遊撃手。広角に打ち分ける柔らかい打撃と長打力も兼ね備え、「攻守でチームを引っ張りたい」と気を引き締める。アジア選手権で2本塁打を放った細川（千葉敬愛高出）は勝負どころで頼りになる大砲。山本（高知農高出）は高い守備力を誇り、本職の二塁以外に一塁、遊撃など複数のポジションをこなす。

強化合宿では平林金属クとの練習試合などで総仕上げする。前回（12年）は2大会ぶりに決勝に駒を進めたものの、開催国のアルゼンチンに敗れており、「目指すは世界一」と意気込む5人。岡山勢が33年ぶりの頂点へ力強くけん引する。

2014年6月7日の山陽新聞朝刊より(山陽新聞社より転載許可承諾済)